

市原市認知症対策連絡協議会

設立一周年 特別講演

●認知症ケアネットワークの必要性●

*平成 26 年 4 月 20 日(日)、五井会館にて埼玉精神神経センター・さいたま市認知症疾患療養センターの丸木雄一様より貴重なお話をいただきましたので、ご報告いたします。

日常診療における認知症診断がなぜ必要なのか？

1. 認知症患者の増加

わが国の総人口は 12744 万人います。その内、25.0%にあたる 3186 万人が 65 歳以上の高齢者となっています。その人数は昨年比べて 112 万人の増加となっています。平成 18 年の日本における有病率では、65 歳以上の高齢者がいる 8 世帯に 1 人が認知症に呈しているとのデータが出ています。

2. 治療法の進歩

認知症疾患医療センター設置基準は、一般病床ならびに精神病床を設置、画像診断を有し(CT、MRI、SPECT など)、よりより診断・治療がすすめられることです。また・常勤認知症専門医、常勤心理士・専門医療相談窓口・地域連携の機能(情報センター、研修会、連携協議会)により認知症ネットの充実ももとめられます。

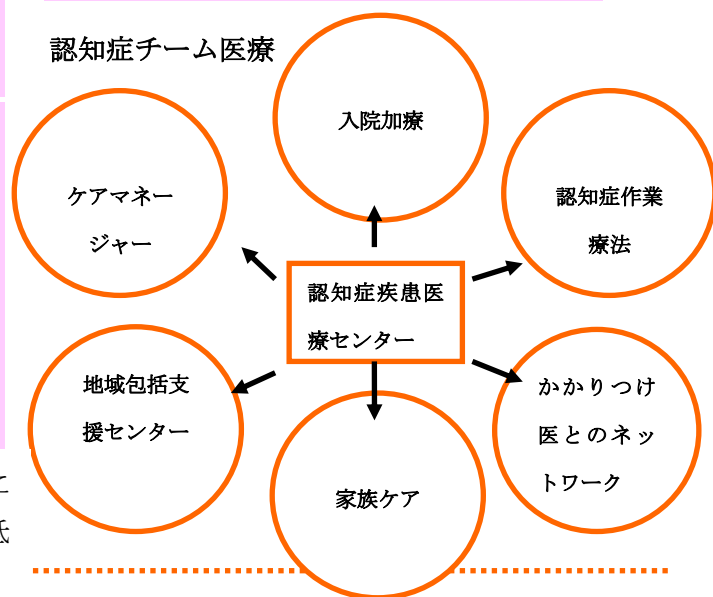
医師との連携に関するアンケート結果では・医師が多忙により連携をとる時間がない・介護支援専門医の地位の低さ・治療のことしか考えていないなどが上がりました。

在宅医療研究会・医師ケアマネ研修会が計 11 回行われています。

かかりつけ医と専門医の連携

埼玉では、さいたま認知症ケアネットワークを構築しています。そこで重要とされることが認知症診断の専門医 認知症サポート医 物忘れ相談医 認知症連携担当医です。

認知症チーム医療



第一回評価・反省(ケアマネサイドより)

医師、ケアマネへのアンケート結果に基づき、このたびようやく合同研修会の開催にいたった。高齢化社会が到来している現在、往診の重要性が注目されているが、専門外の疾患に苦慮している主治医も多い。専門家受診のため道筋を作ることも新たな役割と考えた。今回配布した「ケアマネタイム」の浸透を図り、顔の見える関係づくりをより一層すすめたいと考えた。

第四回評価・反省(ケアマネサイドより)

ケアマネにとっては身近だが、実情を知る機会の少ないテーマで、昨春区内に往診専門で開業された石井先生、精神科看護のエキスパートである佐藤氏の現場に即した話はとても勉強になった。中略 懇親会ではケアマネジャーと医師の輪がいくつか出来、課題であった「距離を一歩縮めること」が徐々に浸透してきたように思えた。

さいたま市認知症対策推進事業では

さいたま市認知症対策方針検討会議 認知症地域ケア多職種共同研修・研究事業 認知症ケアネットワーク委員会主催「もの忘れ相談医研修会」 により認知症情報共有パスの作成、早期診断・治療への道筋作りを目指しています。

。。編集後記。今回号より、労災病院の床枝さんもニュース作りに加わっています。協力しながら、わかりやすいニュースを作っていこうと思います。

引き続きよろしくお祈りします。土屋

～次回例会のお知らせ～ 平成 26 年 10 月 16 日市原市役所 3 階会議室

発行者：市原市認知症対策連絡協議会

連絡先：ichininky@gmail.com

ホームページ：<http://ichininky.grupo.jp>